

## 自己注射が困難な高齢2型糖尿病患者に基礎インスリンと週1回型GLP-1アナログ製剤の併用への切り替えが有用であった2症例

なが さわ あつ し すみ た こう き  
永 澤 篤 司 角 田 耕 紀

キーワード：GLP-1 アナログ製剤，インスリン，高齢者，2型糖尿病

### 要 旨

自己管理の困難な高齢糖尿病患者に基礎インスリンと週1回型GLP-1受容体作動薬であるdulaglutideの併用により血糖コントロールの改善が得られた2症例を経験した。症例1は79歳の女性。認知症の進行によりインスリンの自己管理が困難となり基礎インスリンとdulaglutideの併用に変更。変更前には強化インスリン療法を行っていたが、変更後もそれと同等の効果が得られた。症例2は87歳の男性。BOTで治療をしていたが血糖コントロールが不良な状態が続いていた。基礎インスリンとdulaglutideの併用に変更したところ血糖コントロールが改善し、変更前に見られていた血糖値の大幅な変動も認められなくなった。変更前後の血中CPR/PG比はいずれの症例でも変更後に改善していた。基礎インスリンとdulaglutideの併用は低血糖のリスクも低く、また介護者の負担軽減にもつながり高齢糖尿病患者において有用な治療法であると考えられた。

### はじめに

超高齢化社会を迎えた本邦においては認知症患者が増加しており2012年の時点での65歳以上の認知症有病者数は462万人と推定されている<sup>1)</sup>。高齢糖尿病患者では認知症のみならず加齢に伴う身体機能の低下によりこれまで出来ていた薬剤管理が出来なくなるなど治療上問題となることが経験さ

れている。

今回、血糖コントロールが悪化したインスリンの自己管理が困難な高齢糖尿病患者に対して基礎インスリンに週1回型GLP-1受容体作動薬(glucagon-like peptide 1 receptor agonist, 以下GLP-1RAと略す)のdulaglutideを併用することにより血糖コントロールが改善した症例を経験したので報告する。

### 症 例

症例1：79歳，女性。

Atsushi NAGASAWA et al.

飯南町立飯南病院内科

連絡先：〒690-3207 飯石郡飯南町頓原2060

飯南町立飯南病院内科